

式辞

本日、晴れて札幌保健医療大学に入学された保健医療学部看護学科、および栄養学科の新入生・編入生、大学院保健医療学研究科の新入生の皆さんに、心からお慶びを申し上げます。

希望と期待に溢れる入学生を迎え、ここに二〇二二年度札幌保健医療大学並びに大学院入学式挙行することは、誠に喜ばしい限りであります。

今日に至る過程を支え、励まし、導いてこられたご家族の皆さまにもお祝い申し上げます。

札幌保健医療大学は二〇一三年に開学し、昨年、十年を迎えました。

まだ若く、歴史の浅い大学ですが、皆さんは新たな十年へと歩み出すはじめの入学生となります。

また、開学時からの念願であった大学院の開設が叶い、一期生を迎えることができましたのも、望外の喜びであります。

本学の新時代を担う皆さんの入学をお祝いし、大学を挙げて歓迎いたします。

本日、札幌保健医療大学の学生となった新入生は、高校時代をコロナ禍に翻弄された世代です。

広域感染災害とも言うべき新型コロナウイルス感染症は全世界に甚大な影響を及ぼし、皆さんの高校生活は始めから大きな制約を受けました。

修学旅行や文化祭が中止となり、授業はリモートで行われ、クラスメイトや先輩、教員との交流も十分に行えないなど、

高校生として経験できたはずのことができない三年間でした。

そうしたなかで、これまでに誰も予想しなかった困難を乗り越えてきた皆さんの努力を称え、敬意を表したいと思います。

今後、「コロナ世代」と言われる皆さんには、マイナスをプラスに換え、この世代だからこそその経験と発想によって、これからの時代を切り拓き、未来を自らの力で創り出していただきたいと願います。

さて、皆さんは、それぞれの思いを胸に、この場に座っておられることと察します。本学を志望していた人もいれば、本意でない思いを噛みしめながら座っている人もいるでしょう。

しかし、いずれにしても皆さんの多くは、自らの将来を看護職、あるいは管理栄養士に定め、

人々の健康で豊かな生活を支える役割を担うとの決意のもとに、この場を共有していることと思います。

本学は、健康・生活・食と栄養にかかわる保健医療専門職を育成することにより、道民の健康と生活を守り支えるという使命を果たすべく、

日々の教育研究に当たっています。

保健医療は、社会に不可欠の根本機能であるゆえに、社会、そして人々のニーズは極めて大きく、将来の保健医療を担う皆さんに対しても、健康を守り支える旗手として、大きく羽ばたくことが期待されています。

このような期待に応えうる力を養っていたただくために、本日、私はいくつかのことを申し上げたいと思います。

一つ目は、しっかりと勉強していただきたい、ということ。

まずは、教え手から学んだことを受け入れるという受動的な姿勢を放棄し、「なぜ」という疑問をもつてよく考え、自分で答えを見出す勉強法を身に付けてください。

皆さんがこれから学ぶ多くの知識と技術は、人に益をもたらすためのものですが、

一方で、害を及ぼすこともあるとの認識をもち、腰を据えて取り組んでいただきたいと思えます。

皆さんが得ようとしている国家資格は、社会に貢献することを前提に与えられるものであります。

人々からの負託を受ける人間が不勉強であることは、社会に対する罪悪、人々に対する背信とも言えます。

保健医療は人の命にかかわる学問、実践だからです。

「学ぶことと考えること」、そして「学ぶ方法」をしつかりと身に付けてほしい、それが保健医療で生きる皆さんの第一歩なのだということ、大学で学ぶ知識と技術が将来の自分を支えるということを自覚してほしいと思います。

また、皆さんが四年後に挑む国家試験は、保健医療人として生きるための通過点であり、必要最低限の条件であるゆえに、合格することが必須のものであります。

皆さんの夢の実現は国家試験のその先にあるのだということ認識し、未来への志を高く抱いて、

粘り強く学修に取り組んでください。

大学院に入学した皆さんは、研究者としての一歩を踏み出します。

大学院では自身の力で創造的・独創的な道を切り開いていく勉強が求められています。

研究課題に愚直に向き合い、保健医療の発展に寄与しうる研究成果を作り出してください。願います。

二つ目として、自らが担う責任を正しく認識してほしい、ということです。自分がしたこと、しなかったことに対する責は、皆さん自身が担います。

大学は、何ごとにも真摯に向き合う人に対しては最大の支援を行います。そうでない人間に手を差し延べて救い上げるところではありません。

これは社会の約束事であり、大学は社会に出る前の訓練の場でもあるからです。

皆さんが目指す保健医療の世界では、専門職は自己の判断と行動に重い責任を負い、失敗に対する言い訳は許されないのであります。

また、皆さんがこれから学ぶ看護と栄養は、人に対して実践するものです。

人を対象とする以上、自分の思い通りになることなどありえないということを、皆さんも十分に理解していると思います。

何ごとに対しても自らを律して責任感を持ち、能動的かつ誠実に取り組んでいただきたいと願います。

最後に申し上げることは、皆さんが将来、保健医療専門職として世の中に役立つ武器は何かといえ、看護学・栄養学の知識・技術は勿論ですが、人々の心の痛みを感じる感性と豊かな人間性を含む、人間としての総合的な力にほかなりません。

体力、気力、勤勉さ、誠実さ、人への優しさ・思いやり、粘り強さなどを総合した人間としての力量です。

その意味で、大学生活は非常に重要な人間修練の場でもあります。

本学でこれから学ぶ年月は、皆さんの人生で最も大切な時となります。

人間の身体に成長期があるように、人間の心にも飛躍的に成長する時期があります。

それが大学時代です。

学生時代に多くの人々とつながりをもって共同的な活動に取り組むこと、先人が残してきた様々な知見や文化に触れることなどを通して、感性と人間性を涵養してください。

看護学や栄養学に直接かかわる学問や知識だけでなく、自然・人間・社会と文化に関する幅広い学びが必須です。

皆さんが将来取り組む看護・栄養の実践の質は、実践する者の人間としての力量に左右されるからです。

皆さんはまだ、保健医療で身を立てるといった実感はないかもしれませんが、保健医療を学ぶ学生としての誇りと自信、品格を培い、善き保健医療人としての素養を育んでいただきたいと願います。

札幌保健医療大学は、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」「他者との共存」を価値とする

「人間力教育を根幹とした医療人育成」を教育理念としています。皆さんにお伝えした三つのことは、この理念の実現を目指すものであり、私たち教員・職員自身も質の高い教育を行うために人間力を高める努力を惜しまず、皆さんと共に歩みたいと思います。

本日、私は皆さんに、将来への期待を込めて色々
と要望いたしました。

ここに集う新入生が、共に助け合い、人々の苦し
みや悲しみに寄り添える人間としての力量をつけ
て、四年後、ないし二年後に、ここから飛び立って
くださることを心より願ひ、また、祈りまして、
私の式辞といたします。

二〇二三年四月四日

札幌保健医療大学

学長 大日向 輝 美